Ⅶ　大学生の就職活動

「シューカツ」ってなんだ!? ②

1．日本の大学生の就活とは

日本では、多くの大学生が大学にいるあいだに就職活動を行います。大卒の人のほうが高卒の人よりも、いろいろな会社に応募することができます。高校での就職活動は1人1社しか受けられないのが原則ですが、大学生はたくさんの会社を受けるのが普通です。

どのような会社があるのか調べて、応募のための書類をたくさん書いて、たくさんの会社の試験を受けることを「就職活動（就活）」といいます（公務員試験を受ける場合や、看護師や教師などの専門職に就く場合は異なります）。大学生の就活とは、入りたい会社を選んで、応募することです。やりたい仕事を選ぶことではありません。

会社の採用試験に合格し、卒業後の4月1日から働く会社が決まることを、採用の「内定」と言います。景気にもよりますが、多くの大学生は、何十社も応募して、何十回も筆記試験や面接を受けて、やっと内定をひとつ得られます。就活は、不採用の通知を受け取り続けることでもあります。それでも、大きくて有名な会社で正社員として働きたければ、大学にいるあいだの就職活動がいちばんのチャンスです。

2．会社の選び方

日本では一部の専門職（学校教師、看護師、医師など）以外は、大学で勉強したことが、就職活動や就職後の仕事の内容にあまり関係しません。

一般的には、仕事の内容ではなく、関心のある業種（就活用語では「業界」とも呼びます）をある程度決めて、その業種の会社に応募（エントリー）します。

おもな業種の例

- 製造業（自動車・機械・食品・衣類など）
- ＩＴ（情報処理・通信など）
- 金融・保険・商社（銀行・保険会社・商社など）
- サービス産業（飲食・ホテル・旅行代理店・運輸・交通など）
- 教育産業（塾・語学学校の先生など）
- マスコミ（テレビ・新聞・出版・広告など）
- 農業・林業・水産業（農業法人など）

大学生の就活では、基本的には仕事＝職種は選ぶことができません（新聞

記者など、例外はあります）。たとえば、スーパーで売られているチョコレートのお菓子について考えてみましょう。業種は製造業（メーカー）です。その会社のなかでも、職種はいろいろあります。「こんなお菓子を作ったらどうか」と考える仕事（企画）、お菓子を実際に作る仕事（製造）、お菓子の宣伝方法を考えたり（広報）、スーパーを回ってお菓子をおいてもらえるようにお願いする仕事（営業）があります。また、会社としてやっていくためには、お金を管理する仕事（経理・財務）や、働く人を採用したり配置したりする仕事（人事）も必要です。「このような仕事がしてみたい」と就活の面接で言うことは自由ですが、やりたい仕事に就けるとは限りません。いろいろな仕事を転々と経験させるのが一般的な日本の会社の考え方です。

3．就活のスケジュール

大学4年生になる直前の 3月に採用情報が公開され、会社説明会に参加したり、エントリーできるようになります。4年生の 6月から選考が開始されます。これは、大学生が早いうちから就活ばかりにならずに勉強する時間を確保できるようにという考えで、日本政府と経済団体が話し合って決めているスケジュールです。ただしこれは法律で決まっていることではないので、それよりも早くから採用活動を行う会社もあります。

スケジュールは年によって変わることがあるので、大学のキャリアセンター（名前は大学によって違います）が開催するセミナーに参加したり、キャリアセンターで相談したりして情報を得るようにしてください。

4．「就活」にどう向き合うか

一般的には、会社が大きいほど正社員の給料は高いです。若いうちはそこまで差がないように見えるかもしれませんが、30代、40代になっていくと、中小企業との給料の差が開いていきます。しかも大企業ならば、独身寮や社宅に非常に低い家賃で住めたり家賃補助があるなどのメリットがあります。それだけではなく、「大きな仕事がしたい」「みんなが知っている会社で正社員になれたらかっこいい」と思う人が多いので、有名な大企業ほど競争の倍率は高くなり、就職は難しくなります。

反対に中小企業は、あまり知られていないために応募する人が少ないことが多いです。中小企業であっても、存在し続けているということは、社会にとって必要な仕事をしているということです。中小企業でも若い人を大切に育ててくれる会社はたくさんあります。

就活用のウェブサイトに登録すると、たくさんの情報が毎日のようにメールで届き、「あれをしなければ、これをしなければ」、「もう出遅れてしまった」、と不安をあおられてしまうことがあると思います。また、有名な大企業ばかり受けている

と、落ち続けて「私なんか長所が全然なくて、就職できないかも」と、自分に価値がないように思わされてしまうかもしれません。あまり周囲に振り回されないことが大切です。

海外で商品を生産・販売したり、海外から商品を輸入している会社などでは、取引のある国の言語ができることや、文化がわかること（現地の工場で働く人の考え方がわかることや、売れそうな商品や売り方がわかること）が就活の際にプラスに評価されることがあります。そのような視点で会社を選ぶこともできるでしょう。

王希元さん　税理士事務所勤務

定時制高校から大学に進学し税理士を目指す社会人1年生

■中国黒竜江省出身　16歳のとき来日
■地域の日本語教室で日本語学習10か月
■17歳　豊田西高校 夜間定時制 入学
■19歳　日本語能力試験（JLPT）　N1合格
■20歳　名古屋商科大学 商学部
　　会計ファイナンス学科 税理士コース入学
■24歳　大学卒業　税理士法人 勤務

●定時制高校を選んだわけ

来日したとき、日本語が分からなかったので、最短で進学でき、昼間、日本語の勉強が続けられる夜間定時制高校(p.13)に進学しました。

はじめは定期試験で点数が取れず、大変でしたが、助けてくれる友人ができてすごく支えになりました。2年生の頃、先生の質問に日本語で答えられるなど授業が分かる感触が持てるようになりました。

●定時制高校を3年で卒業

定時制は通常4年ですが、3年で卒業したかったので刈谷東高校の通信制課程で単位を取りました。それから、卒業までにJLPTのN1に合格しようと決めて日本語の勉強も続け、3年生の7月にようやく合格することができました。

●日本で就職するため、大学に進学

もともと勉強が好きなタイプではありませんが、日本で就職したいと思い、大学に行くことにしました。進学するには、進路の希望を先生に早めに伝えて、進学の情報を教えてもらうことが大切ですよ。

●大学、専門学校で勉強できること

大学では会計について幅広く学びます(p.43)。ただ、簿記などの資格を取るには、試験対策の勉強が必要なので、専門学校にも通いました(p.39)。在学中に簿記2級に合格できたので、父が働いている会社で経理を手伝っていました。

●専門知識と中国語を活かして就職

大学で学んだ専門知識を活かせる仕事がしたいと考え、就職試験は会計事務所だけを受けました。ほかの仕事を探す方法もあったけれど、それでは親が払ってくれた学費が無駄になってしまうと思ったんです。選択肢は狭くなってしまうけど、ぶれずに就職活動(p.55)を続け、中国人経営者との取引が多い税理士法人に就職が決まりました。卒業後、ビザを切り替え(p.67)、正社員(p.7)として働いています。

●目標は税理士として独立すること

税理士になるには合格しなければならない科目がたくさんあるので5年かけて1つ1つ合格していく計画です。ほかにも、仕事に活かせる資格の勉強をしているんです。それらの資格も活かして、30歳までに税理士として独立するのが目標です。

カルロス アルベルトさん　外資系企業勤務

スペインの大学へ進学
インターンシップで仕事を覚え日本で転職

■1986年ペルーで生まれる　4歳の時に来日
■小、中、高と日本の学校で学ぶ
■スペインの語学学校で大学受験の準備をする
■サラマンカ大学入学
■バルセロナ自治大学編入
■アパレルメーカーDesigualや日系のサッカー関係の会社で、インターンシップでキャリアを積む
■その後、日本でラルフローレンに転職

●スペインで大学進学するために

日本の高校卒業後、大学に入るための勉強をスペインのサラマンカにある語学学校でしました。教科書はなく資料もない先生も多かったです。絶対に休めない勉強しなければならない環境でした。日本では日常会話だったスペイン語のレベルを大学のレベルに上げていかなければなりませんでした。話す事と、知識をつける事の２つの課題がありました。それまで、家庭でスペイン語を話すはあっても、スペイン語としては勉強をしていなかったので正しい文法で話すことは難しかったです。後付で文法を勉強しました。

●サラマンカ大学に入学、バルセロナ大学へ編入

大学では経済を学びましたが、会計や簿記は、学部でも一番難しいとされる科目でした。家庭教師をつけて頑張りました。卒業後スペインで就職することを目指して３年生の時バルセロナ大学へ編入しました。しかし、リーマンショックと重なりスペインで就職する事は難しいかもしれないと思い始めました。学生の身分で働くインターンシップをしながら大学での勉強を続けました。

●スペインでのインターンシップ

インターンシップとは、学生が興味のある会社で実際に働き、業務内容や働くことの理解を深めることです。給与も出ます。スペインのインターンシップは、仕事を教えてもらうというより、実際に仕事をして自分で覚えるという感じでした。輸出入に関する書類の書き方などは、書籍やインターネットで調べて自分で覚えました。アパレル会社のインターンシップを続けるうち、リクルーター(求人担当)として、日本に出張するまでになりました。

今は、同じリクルーターとして東京の外資系企業日本法人に就職して働いています。インターンシップを通し自分に向いている仕事に出会えました。